松　風

福島県公立学校退職校長会

郷土の祭り紹介……1
県教委への要望活動・懇談会……2
高校長協会・小中校長会との懇談会、他…3
東北地区協議会福島大会開催……4～6

〒960-8107 福島市浜田町4-16 富士ビル2階
TEL（024）534-5411
FAX（024）531-1195

屋 台

七行器（ななほかい）行列

郷土の祭り紹介

会津田島祇園祭

南会津支部　佐藤誠一

田島の祇園祭は、鎌倉時代が起源とされ、明治十二年より、田出宇賀神社の祇園祭にあわせ、熊野神社祭礼を祇園祭の格例に準じて行うようになり、昭和五十六年に、国の重要無形民俗文化財に指定されました。

祇園祭の特徴は、お党屋（とうや）制度によって運営されることです。現在九組のお党屋組が、当番組を中心に、「渡し」「当番党本」「受け取り」と三年がかりの大行事です。

祇園祭は一月中旬に御党屋御千度から始まります。

紋付羽織、股引、白足袋、草鞋履で、御千度参りをし、祭礼無事、組中安全を祈ります。その後の直会では、四合入りの大盃に御神酒を注ぎ飲み廻します。

七月上旬に、御神酒仕込があり、杜氏の指導により、どぶろくを仕込み、参拝者にもふるまわれます。

七月二十二日から二十四日の祭礼のメインは二十三日です。

一番有名なのが「七行器行列」、別名花嫁行列と言われ、七つの行器に御神酒、赤飯、鯖を盛りおさめ奉献する神事です。

未婚者は島田髷を結い江戸褄、既婚者は丸髷、男は裃姿で、七度の使いを先頭に神社へ向かいます。

行列終了後に、お神輿渡御となり、神輿が町内を練り歩きます。

夕方からは、屋台の運行が始まります。四台の屋台が、子ども達の「おーさんやりかけろ」のかけ声とともに町内を駆け回ります。芸場に着くと歌舞伎が上演されます。

二十四日は、最終日となりますが、華やかな行事はなく、落ち着いた雰囲気の中で、帰座の神事、諸道具引き渡し等が行われ、当番党本の役目が終了します。

午後から、神社神楽殿で「太々神楽」が奉奏されます。

祇園祭においでいただき、実際に見て楽しんでください。

県教委への要望活動

要望書の手渡し

令和六年七月三十日、県庁西庁舎五階教育委員室において、福士寛樹会長より大沼博文県教育長へ、実現へ向けて、取組いただけるようお願いを申し上げ、「要望書」を直接手渡した。

◇主な要望内容

○本県学校教育の復興・充実のため、教育諸条件の整備・充実に努めていただきたい。

・学習指導要領を踏まえた持続可能な開発のためのＥＳＤ・ＳＤＧｓの積極的な推進

・第七次県総合教育計画の具現化や県立高校の特色化・魅力化が図れる教育予算の増額と週三十時間の教育課程編制の弾力化

・優秀な教員の確保とチーム学校推進のための優秀なスタッフの配置と増員

・研修予算の拡充、少人数教育の継続と中学校三十五人以下学級の実現

・加配教員、ＳＣ・ＳＳＷの継続的配置や勤務日数の増加・勤務時間の延長

・特別支援学級編制基準の緩和による学級の新設・増設と特別支援学級負担軽減補正等の加配継続

・ＩＣＴ教育環境の充実に向けた予算の支援と情報関係担当者の確保・増員

・ＳＮＳ等に起因する問題等に対し、横断的な連携体制の確立並びにネットリテラシー教育の充実

・児童生徒が安全で安心して学べる教育環境の整備

○年金制度及び保険・医療・福祉等の充実、退職者の再任用や講師の登用等について、関係機関に強く要望していただきたい。

要望書の手渡し

県教委との懇談会

懇談会は、大沼博文教育長、教育次長、各課長等十名、本会より福士寛樹会長と事務局員九名が出席し、開催された。

はじめに、福士会長から要望書の実現へ向けて、特に、震災復興加配等の継続、標準法の改善、教育課程編制の裁量、教職員の処遇改善、教育予算の増額等についてお願いを申し上げた。

続いて、大沼教育長より「本県教育の推進に多方面から支援いただいていることに感謝を申し上げる。第七次福島県総合教育計画では、『学びの変革』とその実現のための『学校の在り方の変革』を柱に取り組んでいる。各施策の推進には、関係の皆様と思いを共有し取り組んでいきたい。今後とも指導・協力を賜るようお願い申し上げる。」等の御挨拶をいただいた。

懇談では、坂爪事務局長が、要望書の内容について話題提供するとともに、「退職校長会と県教育委員会が連携し、『学校の在り方の変革』の推進について」のテーマで協議を行った。

懇談会の様子

これらに対し、各課長等からは、施策も含め、次のような説明があった。

○ＳＣは中・高に配置し、単独配置のない小学校は学区の中学校から派遣している。ＳＳＷは各教育事務所に配置し、学校の要請に対応している。

○少人数教育では、子ども一人一人にきめ細かな指導ができ、生徒指導・学習指導の両面で効果が現れてきている。

○特別支援学級は標準法で編制し、児童生徒数の多いところは非常勤講師を県からも配置し、負担軽減を図っている。

○県立高校普通科では、大学や事業所等と連携して体験学習などに取り組んでいる。

○県立高校の週三十時間の教育課程編制は、すべての学校で検討し、来年度から実施の予定である。

○中・高に部活動指導員を配置し、また、中学校部活動の地域移行は、市町村主体で、県教委と連携し人材確保に努めている。

○スクールサポートスタッフは、ニーズに応じながら、全校配置へ向けて人材の確保に努めている。

○一人一台端末の更新やネットワーク環境の整備を進めている。ＩＣＴ支援員は、適切な配置を検討していきたい。

最後に、飯沼副会長が教育課題に向けた様々な取組に感謝を述べるとともに、今後も効果的な対策を講じていただけるようお願いし、閉会した。

県教委との懇談会に備えて　相互理解と協力強化のために

県高等学校長協会との懇談会

県高等学校長協会との懇談会

令和五年六月四日(火)、福島東高等学校において協会代表者との懇談会を実施。

◇**学力低下・学力差の拡大**
・学習習慣が身についてなく、指示待ちの生徒増加
・スマホの取扱の課題

◇**教育課程の見直し**
・標準三十単位で編制
・生徒たちの学びの変革

◇**SC・SSWの拡充**
・時間・配置日数の拡充
・不登校生徒への対応

◇**タブレットの導入**
・Wi-Fi 環境の整備
・施設・設備の充実援助

◇**高校入試制度**
・私立高校に生徒が流出
・公立高校に集まるような高校入試改革の推進

◇**教育予算の確保**
・特色化、個性化、探求学習の充実

※インターハイサッカー本県での固定開催（Jヴィレッジ）
※産業教育フェアー開催

県小・中学校長会との懇談会

県小・中校長会との懇談会

令和六年七月十八日(木)、福島市吾妻学習センターで実施。

◇**生徒指導部調査結果より**
・不登校、いじめ、暴力等への対応においてSC・SSWの効果は大
・SC・SSWの勤務日数、勤務時間の増加が必要
・ネット依存の問題は、深刻。対応すべき時期

◇**行財政部調査結果より**
・特別支援学級児童・生徒数、学級数の増加
・新採用教員は増加傾向、今後研修充実が課題
・特別支援学校教員免許を有する教員の配置が課題
・教員業務支援員(SSS)配置の継続、増員が必要

◇**被災地区等における現状**
・極少人数学級のよさを生かした指導の充実
・地元出身教員の確保

◇**中学校における進路指導**
・私立高校への進学生徒の割合が増加
・特別支援学級生徒の全日制高校への進学者数増加

支部長会　報告

令和六年度支部長会は、令和六年十一月十二日(火)福島市吾妻学習センターで行われた。会に先立ち、研修会を設定し、福島県教育庁教育総務課長　柾木涉様よりご講話をいただいた。

県教育庁教育総務課長
柾木　涉 様

◇**研修会**
○講話題「学びの変革の今とこれから」
・社会の変化
・福島県の学びの変革
・学習指導要領の現在地とこれから
・生徒指導の視点
・学校における働き方改革
※詳しくは本会ホームページに掲載。

◇**支部長会**
○報告
・県大会二本松大会、東北地区協議会福島大会、事業実施状況、新入会員数及び会員数、賛助会員等調べの集計結果などの報告がなされた。

○協議
・県大会会津大会及び「大会宣言(案)」、令和七年度活動の重点目標(案)(運営ビジョン、デジタル化将来ビジョン、社会貢献活動推進概念図)、令和七年度の予算編成の方針・予算(案)、「松風」等広報紙発行計画、要望活動の方針(案)、教育懇談会実施要項(案)などについて協議した。

○事務連絡
・令和七年度「寿詞・賀寿・賀詞」該当会員名簿及び高齢者叙勲該当者について他。

支部長会の様子

第50回 東北地区退職校長会協議会 福島大会 開催

第五十回東北地区退職校長会協議会福島大会が、令和六年十月八日(火)・九日(水)の二日間にわたり、東北地区各県退職校長会代表者四十四名の参加のもと、ホテル福島グリーンパレスにて開催された。一日目は、理事会、大会（開会行事、講話、話題提供と協議、理事会報告、閉会行事）、親睦懇親会が行われた。二日目は、視察研修（大熊町立学び舎ゆめの森、双葉町の東日本大震災・原子力災害伝承館）を行った。

【第一日目】

大会の様子

理事会

本会に先立ち、各県理事の参加のもと、午前十一時から行われた。太宰明東北地区退職校長会協議会会長（宮城県）のあいさつの後、開催県会長の福士会長を議長に選出し、協議に入り、次の内容について話し合われた。

○役員人事について

・今年度は役員改選の年ではないが、秋田県で会長交代があり、それに伴い本会副会長に伊藤栄二様が就任。

・会長職は各県持ち回りで、次年度からの二年間は福島県会長が担当（東北地区退職校長会協議会事務局も福島県が担当する）。

○提出案件について

・開催日は二日間であるが、実質は一日開催。大会二日目、朝食後に解散することが原則。変更がある場合は事前に協議する。

・全体会における話題提供については現行の三県から二県とし、三年に一度の発表とする。山形大会では秋田県と青森県が話題提供。

・短縮した時間を使い、各県との情報交換の時間を設ける。

○次年度開催県及び協議題について

・次回は山形大会。令和七年十月九日(木)、十日(金)山形国際ホテルで開催。

・協議題は、「充実した生き方や地域の教育・文化の向上に資する活動はどうあればよいか」。

理事会の様子

大会

各県理事・役員二十六名、県各支部長十六名、県事務局十四名の参加のもと、開催された。

◇開会行事

鈴木昭雄本県副会長の開会の言葉のあと、太宰明東北地区退職校長会協議会会長のあいさつと続き、来賓を代表して大沼県教育長様、佐藤福島市教育長様、丹野県高等学校長協会会長様より、ご祝辞をいただいた。なお、石幡県小学校長会会長様、板橋県中学校長会会長様、佐藤本県顧問にもご臨席いただいた。

◇講話

田中全連退会長

全国連合退職校長会会長田中昭光様より、「学校が抱える課題解決」と題して講話をいただいた。

初めに各地区退職校長会の全連退への理解と協力に謝意を示した。次いで全国的な課題として会員の減少とその影響について触れ、会報発行回数の減少や各部委員会活動の減少等に言及した。また、グローバル化と技術革新の進展に対応する教育の必要性を強調した。

さらに、地域全体で子供たちを育てる日本の特徴を生かした退職校長会の役割を踏まえ活動を進めるとともに、学校支援活動、PTA活動への支援の重要性、退職校長会としての在り方を今後も模索していくことなどを述べられた。

◇話題提供と協議

《協議題》

「充実した生き方や地域の教育・文化の向上に資する活動はどうあればよいか」

○宮城県から

『時代の変化に応じた組織の在り方を探る～新規事業「セカンドライフへ向けた交流会」を通して～』と題して、宮城県退職校長会副会長、日塔光博氏から話題提供があった。

仙台市退職校長会の概要説明があり、主な事業の一

宮城県

つとして、校長退職後の社会環境の変化に対応できるよう、退職校長としての経験を伝えることを目的に創設した新規事業「セカンドライフへ向けた交流会」について話題を提供した。

退職を控えた校長との交流会、今年で五回目。退職後一年経過会員へアンケート調査Ⅰ（意識面…定年を前に不安だったことは、再就職したか、現職時代との違い、戸惑いはなど）、アンケート調査Ⅱ（再就職先での実際面…仕事内容、勤務日数、時間、収入額など）の結果に基づき、自分の体験を具体的に語ってもらう会員による講話（再就職の実際）、退職後の「お金」の話（退職金の管理、健康保険の加入方法、年金の手続き、ライフプランの立て方など）を行っているとのこと。

現職校長からは感謝されているが、定年延長が進む中、役職定年時の入会が維持できるかなどの課題もあり、退職校長会に所属する意義を実感してもらうための工夫が必要。

○山形県から

山形県

『学校の応援団としての役割をとおして～米沢市歴代教育懇話会の持ち方の変遷から～』と題して、山形県退職校長会評議員、山形善一氏から話題提供があった。米沢市歴代校長教育懇話会は退職校長会会員と市内小・中・高・特別支援学校の現職校長が一堂に会し、年一回開催とのこと。

令和四年度は現職校長からの要望が強かったので退職校長会側で講師（日本安全教育学会理事長、戸田芳雄氏）を選定し、講演会「今求められている校長の危機管理」を開催。退職校長十七名、現職校長二十六名が参加し、人命優先で事故発生以前の備えの重要性、想定外の事故発生に対するリスクなどの研修を深めた。

令和五年度は研修会「LGBTQと基本的人権」を開催。現職校長二十三名、退職校長二十三名が参加。

令和六年度は研修会「発達障害のある子どもの理解と支援～校内支援体制づくり」を十月三十日に開催予定。

○福島県から

『福島県公立学校退職校長会各支部における社会貢献活動及びクラブ（同好会）活動の現状と課題』と題して、県退職校長会総務部、内藤良行氏が話題提供をした。

福島県

各支部における社会貢献活動については、令和二年度の調査結果に基づき、学校教育や地域社会に貢献している活動例を取り上げ、各支部の取組の実状を紹介した。

また、クラブ（同好会）活動については、令和五年度の調査結果を踏まえ、県内各支部のクラブ（同好会）設置状況や活動の様子などを紹介し、会員の高齢化や減少が進む中、各支部では実状に合せて会員相互の交流や親睦、研修等に取り組んでいることを発表した。

◇理事会報告・閉会行事

坂爪福島県事務局長から午前中に行われた理事会の結果が報告され、閉会行事に移った。

閉会行事では、太宰明協議会長のあいさつのあと、山形県の鈴木弘康会長から次期開催県のあいさつがあり、次いで本県斎藤秀一副会長の閉会の言葉で大会を閉じた。

親睦懇親会

県教育委員会教育長、福島市教育委員会教育長、福島県高等学校長協会会長、県顧問、奥の松酒造株式会社社長様を来賓に迎え、田中昭光全連退会長を交え、参加者全員で親睦懇親会を行った。コロナ禍で見送られていたが、今回実施され、それぞれ情報交換をしながら大いに親睦を深めた。

親睦懇親会の様子

【第二日目】

視察研修

二日目（十月九日）は、田中全連退会長をはじめ、各県代表者三十四名が参加し、視察研修を行った。

朝八時に貸し切りバスでホテル福島グリーンパレスを出発し、目的地である視察研修先の大熊町立学び舎ゆめの森と東日本大震災・原子力災害伝承館を訪れた。

行きのバスの中で、福士寛樹福島県会長からのあいさつがあり、県小学校長会作成のＤＶＤ『復興の歩み』を視聴した。

その後、鈴木恵一双葉支部長から「双葉支部の東日本大震災、原発事故当時の状況と現在の状況」について講話をいただいた。当時の避難の状況や、旧会津若松市立河東第三小での学校再開の苦労や現在の双葉支部の現状など体験を交えて話された。

午前十時頃、大熊町立学び舎ゆめの森に到着。

○大熊町立学び舎ゆめの森

佐藤由弘大熊町教育委員会教育長様と南郷市兵大熊町立学び舎ゆめの森校長・園長様よりあいさつをいただいた。学校再開までの経緯や「学び舎ゆめの森」における教育理念と概要等をうかがった。学び舎ゆめの森は、認定こども園と義務教育学校、預かり保育、学童保育を一体にした施設で、○歳から十五歳までの子どもたちが集う、遊びと探究の学び舎として令和五年の春に開校した。「わたし」を大事にし、「あなた」を大事にし、みんなで未来を紡ぎ出す学び舎で、現在園には二十七名、学校には三十八名が在籍。

学び舎ゆめの森にて

その後、校舎内を見学。円形の図書ひろばを中心に放射状に義務教育ゾーン、学童ゾーンなどが混ざり合って、校舎全体が遊びと探究の舞台となっていた。

図書ひろば

最後に、岩崎秀一富岡町教育委員会教育長様より、「震災・原発事故後の双葉地区の学校教育とこれから」と題して講話をいただいた。

巨大地震のその影響、津波被害と原発事故の発生、避難所での生活と困難さ、学校の再開と移転の状況、震災後の教育活動の継続、双葉郡教育復興ビジョンの推進などについて話された。

その後、双葉町産業交流センターで昼食をとり、午後一時から二番目の視察先に移動。

○東日本大震災・原子力災害伝承館

プロローグ（展示の導入となる映像）を視聴し、震災当時の地震・津波・原発事故の被害の様子、過酷な避難を伝える展示などを自由に見学し、震災・原発事故等の影響が今も続いていることへの理解を深めた。

東日本大震災・原子力災害伝承館にて

視察後、帰路につき、午後四時頃福島駅西口で解散した。

○参加者からの感想

各県の参加者からは、すばらしい視察研修であったという感想が寄せられた。その一つを紹介する。

・未曾有の複合災害に遭われた皆様の、気が遠くなるような放射能との戦いは想像を絶するご苦労があることでしょう。そのような状況下において、復興に向けて力強く一歩ずつ前に進んでいる姿をうかがい知ることができました。「百聞は一見に如かず」。廃炉が進まず、先が見えない中で「大熊町立学び舎ゆめの森」の開校は、復興へ向けての希望の光となっていくことと思います。（中略）〈宮城県〉

編集後記

視察研修は、福士会長をはじめとする福島県の強い願いにより実現した。

ある参加者は「双葉地区の耕作放棄された田には、一面セイタカアワダチソウやソーラーパネル。山々の木々はつたや枝が伸び放題で密林のよう。住人のいない家々は玄関にも行けそうにないほど草が伸びて、すべてが驚きでした。」と原子力災害の現状を肌で感じとっていた。

今後も双葉地区の今を発信し、本県の原子力災害からの復興・創生状況について理解を深めていきたい。